

日本比較文化学会

JACC 比較文化会報

本部：〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3
 同志社大学言語文化教育研究センター 香柏館611 長谷部陽一郎研究室内
 事務局（並びに会報編集）：〒370-0068 群馬県高崎市昭和町53
 新島学園短期大学 高山有紀研究室内
 会長室：〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3
 同志社大学文化情報学部 夢告館715 山内信幸研究室内
 学会HP：<http://www.hikakubunka.jp/>

《第31回全国大会》

初夏の九州路！ 日本比較文化学会全国大会へ！！

日本比較文化学会 副会長・九州支部長 市川 郢康
 同 全国大会準備委員長 崎村 弘文

第31回日本比較文化学会全国大会が、6月13日（土）に九州支部担当で久留米大学にて開催されます。

久留米大学の位置する久留米市は、人口30万人の〈中核市〉のひとつで、九州の陸上交通の要衝。久留米絨などの名産品で知られる街です。中に在って久留米大学は、80年の歴史を有する医学部、大学進学率で名を馳せる附設高等学校など複数のキャンパスを市内に有し、広く市民に開かれた大学たることを目指しています。今回、学会の会場となる予定の御井（みい）キャンパスは、『平家物語』等の古文書の所蔵神社・高良大社が鎮座する高良山（こうらさん、標高312m）の麓に在り、緑の濃い、文科系の学部が集まるキャンパスです。

10年前にも全国大会が開催されたことが有りますが、その時とはまた打って変わって面目を一新した建物群が皆様を御待ちしております。常に学生・教職員の利便性を考えて進化する姿が、そこにはあります。一方で、変わらぬものも大切にする久留米大学としては、大会当日夕刻の懇親会の席上、前の全国大会の折りと比べても遜色無い、焼酎王国九州ならではの名品を御賞味いただく所存です。

前回の第30回全国大会の折りに、現会長・山内信幸氏は、学会が〈人間で言えば、既に「壮年」の域に達し〉、〈最近になってようやく市民権を得て、比較文化的な手法による学術研究の必要性が認識されるようになってき〉た旨、会報で指摘されました。九州支部の役員一同も同様の思いを致すものであり、その意味で、講演者に「世界の文化の変遷と日本の医療事情」との内容で講演頂く薬師寺道明久留米大学学長を得たことは、その思いの実現を目指すものとして喜ばしい限りであります。

緑したたる6月の九州路へ、皆様のお元気でのお越しをお待ちしております。

日本比較文化学会第31回全国大会日程ならびに研究発表募集のお知らせ

日本比較文化学会 副会長・九州支部長 市川 郢康
同 全国大会準備委員長 崎村 弘文

本年の全国大会は、九州支部がお世話させていただき、6月13日（土）に久留米大学御井キャンパスで開催されることになりました。つきましては、当日の日程スケジュールと研究発表募集要項をお知らせいたします。研究発表をご希望の方は、締切日までに、必ずご連絡いただきますようお願い申し上げます。

<スケジュール>

日時：2009年6月13日（土）

会場：久留米大学（御井（みい）キャンパス 800号館）

8：30～9：30 編集委員会

9：40～10：40 理事会

10：50～12：20 シンポジウム

12：20～13：15 昼休み

13：20～14：10 総会

14：20～15：20 講演

15：30～18：00 研究発表

18：10～20：00 懇親会

<研究発表募集要項>

書式：WORDを40字×36行設定にして、中央1行目にタイトル、1行あけて、氏名、そのあと（ ）内に所属を書く。1行あけて、A4サイズ1枚におさまるようにレジュメを作成してください。（書式については、準備委員会の方で簡単な編集をさせていただくことをご了承ください）。

送付先：A4サイズ1枚に作成したレジュメを添付ファイルにして崎村弘文（全国大会準備委員長 sakimura_hirofumi@kurume-u.ac.jp）まで。

締切：2009年4月11日（土）必着（レジュメ集作成との関係上、締切を厳守願います）。

ご不明な点がございましたら、崎村弘文まで何なりとお問い合わせ下さい。

《寄稿》

本学会は、台湾日本語文学会との間で学術交流協定を締結いたしました。昨年12月、台湾での国際大会開催に際し、山内信幸会長が協定式に臨まれました。奥村訓代副会長が参加記を寄せてくださいました。

台湾紀行—台湾日本語文学会との学術交流並びに国際大会に参加して—

副会長 奥

村訓代

筆者にとっては20年ぶりの台湾訪問とあり期待と不安の旅でした。タイムスケジュールに従ってラフなメモをご紹介します。

2008年12月19日、年の瀬が迫る中、関空から一路台湾（台北）へ。桃園空港に到着したのは、3時30分過ぎ。予定通りなら6時の夕食会には余裕のはず……。ところが入国審査官が少ない……。長蛇の列が40分。やっと台湾入国完了が4時10分。この時点で、かなりの疲労感を感じる。ここで最初の驚きを感じる。「あれ、あの超しつこい客引きや強引なタクシー運転手は？」とにかく急げ！バスに揺られて45分、台北駅に到着。

ここで驚き、その2。「きれい。そして地下からMRT（地下鉄）やHST（新幹線）が出ているんだ……。」予定では、ホテルチェックインを済ませて夕食会に参加のつもりであったが時間の都合で淡水線を途中下車。夕食会場にたどり着いて5分前に滑り込みセーフ。

会場では、主催者が招待スピーカー並びに日本比較文化学会のメンバーを歓迎してくださいました。（食事は、実に美味しゅうございました。御馳走様でした。）

12月20日、大会当日。朝9時から開始。開催挨拶に続き基調講演。その後、多数の発表が続きました。（詳細はHPをご参照ください。）また、お昼を挟んでメインイベントの一つである学術協定が行われました。午後6時半に大会は終了し、7時から懇親会がこれまた盛大に開催されました。

これらを通して感じたことは以下の通りでした。

- 1 約400人の国際大会にふさわしい内容でした。
- 2 参加者への配慮が感じられる内容でした。
（国際性と慣れを感じました）
（日本は、ひょっとすると遅すぎると感じたのは筆者だけでしょうか？）
- 3 発表全てが日本語で行われる日本語力の高さに驚かされました。



以上、雑感を含んだ報告として。

（文責：特派員 奥村）

《事務局より》

○海外での国際学会等での発表に伴う外国旅費補助について

日本比較文化学会理事会は、本学会会員が海外で開催される国際学会・大会等において発表を行う際の、渡航費・宿泊費の一部を補助する旨の申し合わせを制定し、本年4月1日より施行することを決定しました（2009年1月1日制定）。

補助の対象となるのは、本学会会員のうち、常勤職（期限付きのものを含む）に就いていない若手研究者（申請時40歳未満）です。発表の内容が、本学会の趣旨に関連していることも申請の条件となります。所定の申請書に、学会参加を証明する書類や、費用負担証明（航空券・宿泊費領収書の写し）、パスポートの出入国記録の写し等を添付し、所属支部の支部長を通して本部事務局に申請を行っていただきます。年2回（9月末日まで、3月末日まで）、申請を受付けて審査を行います。1件につき3万円、年間15万円を上限に補助を行う予定です。なお、この補助を受けた若手会員は、『比較文化研究』に1ページ程度の発表内容報告を行っていただきます。

詳しい情報は、学会HPにも掲載されておりますのでご覧ください。

○会費納入のお願い

会費の納入にいつもご協力いただき感謝いたします。3年を超えて未納の場合には会員資格を失うこととなりますのでご注意ください。少し早めですが、2009年度分の振り込み用紙も同封させていただきます。なお、今月（3月）納入された方は、行き違いになりますがご容赦ください。納入したかどうか不確実な場合には、事務局（高山）までお問い合わせください。

会費納入の郵便振替口座番号：02570-6-8921 加入者名：日本比較文化学会
振り込みの際には、所属支部と何年度分の会費であることを明記してください。

《支部報告》

東北支部

*2008年9月27日（土）支部総会（於弘前学院大学）

1、講演：

佐藤和博先生（弘前学院大学教授）「アメリカ文学と鉄道」

2、研究発表：

(1) 上羽広明（石巻専修大学<非>）

「比較文化の観点から見る英語コミュニケーションの指導法—英語固有リズムと日本語固有リズムの比較解析—」

(2) 森 一（郡山女子大学）

「日本語の頭音節を構成する濁音と日本の自然との関わりの考察」

3、総会：

* 2008年11月22日（土）東北・関東支部第2回合同研究発表会（於弘前学院大学）

司会 佐藤幸正（弘前学院大学）

1、講演：

栗原 靖先生（弘前大学名誉教授）「敬語の問題—く居（お）られる>は規範的には誤用であるのか—」

2、研究発表：

第1室

(1) 鈴木敦子（浜松学院大学）

「ナーサリータイムとわらべ歌 その文化的・歴史的比較」

(2) 佐藤豊（青森大学）

「ドライデン・リーの合作『ギーズ公爵』（悲劇）を読む—二大政党のせめぎ合いの中の文学—」

(3) 水島孝司（南九州短期大学）

「大学英語教育の目的を考える—JACET 実態調査（2003）の調査項目をめぐって—」

第2室

(1) 高橋 強（常葉学園大学）

「多文化共生と協働—大学生の多文化意識調査に関する一考察—」

(2) 野口周一（湘北短期大学）

「教えることの復権と教えないことの必要性をめぐって」

(3) 高橋栄作（弘前大学・高崎経済大学<非>）

“A Pronunciation Error by Japanese Learners of English”

支部長 佐藤和博

関東支部

*2008年9月6日（土）第17回研究発表会（例会）於上智大学

1、研究発表：

(1) 岡本さだこ（青山学院大学<非>）

「Emily Dickinson の諦念と現代的意味—“Renunciation” in Emily Dickinson’s Poetry—」

(2) 鈴木宣行（創価大学）

「セネガルにおける“コミュニティ”と宗教思想—「女性」とその日常生活活動の視点から—」

2、講演：

山本浩先生（上智大学）「イギリス・イングランド・ブリテン」

*2008年11月22日（土）第18回研究発表会（第2回東北支部・関東支部合同研究発表会）
於弘前学院大学（東北支部の活動報告参照）

*2008年12月6日（土）第19回研究発表会（例会）於高崎市南公民館

1、研究発表：

(1) 川村容子（早稲田大学大学院）

「モルドヴァ共和国における言語問題—法規と現状の相克」

(2) 川村容子（早稲田大学大学院）

「言語問題を考慮したモルドヴァ共和国における社会構造の再検討」

(3) 野口周一（ソニー学園湘北短期大学）

「群馬県社会教育実践を考える」

(4) 下田尾誠（中央総合学園）

「ブルドックにみるイギリス社会史」

*2009年2月28日(土)第20回研究発表会(例会)於東京未来大学

1、研究発表:

(1) 高山有紀(新島学園短期大学)

「中世南都の“八宗兼学”について」

(2) 高橋強(常葉学園大学)

「小学校英語教育—英語ノートの是非をめぐって—」

(3) 野口周一(ソニー学園湘北短期大学)

「歌人“渡辺よしたか”との出会い」

3、講演:

近藤俊明先生(東京未来大)「臨床心理学と文化」

支部長 野口周一

関西支部

関西支部では、昨年10月、12月に例会を開催いたしました。そして、11月は、九州大学で開催されました関西・中四国・九州3支部合同研究会において、関西支部からの会員が参加・発表いたしました。今回は、3月に例会を予定しており、今後ますます活発な支部活動を続けてまいります。

*10月例会 2008年10月18日(土) 於同志社大学今出川キャンパス

1、研究発表:

(1) 藤浦五月(大阪大学大学院言語研究科博士後期課程)

「L2からL1への影響について—日本語学習者を対象に—」

(2) 内田朋子

「「Adj+すぎる」についての—考察—「文法化」の概念を用いて—」

2、講演:

Eric R. Lofgren 先生(バックネル大学准教授 2008-09年度AKP所長) “Desire in Japanese Film: Toward a Prolegomenon”

*12月総会及び例会 2008年12月13日(土) 於同志社大学今出川キャンパス

1、日本比較文化学会関西支部総会:

(1) 支部長交代の件

(2) 2007-2008年度決算の件

(3) 2008-2009年度予算の件

(4) その他

2、研究発表:

(1) 瀬本阿矢(京都大学人間・環境学研究科博士後期課程)

「詩人の翻訳—瀧口修造とサルヴァドール・ダリ—」

(2) 栗山裕也(関西大学大学院文学研究科博士後期課程)

「戦争の記憶—Hemingwayの“Big Two-Hearted River: Part I”を読む」

3、講演:

狩野博幸先生(同志社大学文化情報学部教授) 「若冲と蕭白に及ぼした明末清初の文学思想—“清新”と“無頼”—」

このたび、山内信幸支部長の会長就任にともない、副会長の北林利治が、日本比較文化学会
関西支部総会での承認を得て、関西支部長に交代いたしました。

支部長 北林利治

中・四国支部

*2009年2月21日(土)

中四国支部役員会 於高知大学

議案1: 次年度計画

春・秋に支部大会を開催する(予定会場: 香川大学/徳島文理大学・中国地区)

6月の全国大会に参加する(久留米大学)

3支部会に参加する(関西担当? 11月か12月?)

議案2: 支部役員・事務局

支部長: 奥村訓代(高知大学)

副支部長: 山下明昭(香川大学)、藤岡克則(徳島文理大学)

支部理事: 丸井一郎(高知大学) 査読委員兼務、三浦秀松(徳島文理大学) 総務兼務、
公文素子(明德義塾高校) 査読委員兼務、古閑泰子(四国学院大学) ハラス
メント委員兼務、梶原 雄(釜山外国語大学) 渉外兼務、岩崎亜美(高知大
学大学院) 会計・事務局

議案3: その他

次回(6月の全国大会までに支部大会を開催する)の会場と日時を、徳島文理ならびに
香川大学で早急に模索する。また、秋には中国地方の大学開催を奥村が交渉する。また、
次年度より支部会費を1000円徴収し、連絡と支部運営に使用することが承認された。

支部大会(共催 高知大学・日本比較文化学会日本語・日本文化部会) 於高知大学

1、開会挨拶: 副会長 奥村訓代

2、講演:

山下明昭先生(香川大学) 「多文化共棲論・認知言語学・社会言語学から学ぶ離婚回避
率」

3、シンポジウム: テーマ「日本語を磨こう」

山内信幸(同志社大学)

中川久公氏(京都恵美須神社)

山下明昭氏(香川大学)

三浦秀松氏(徳島文理大学)

司会: 奥村訓代(高知大学)

4、研究発表:

公文素子氏(明德義塾高校 日本語コース)

岩崎亜美氏(高知大学大学院)

5、閉会挨拶:

支部長 奥村訓代

九州支部

*2008年11月29日(土) 第5回関西・中四国・九州3支部合同研究会 於九州大学

1、講演: 山本源太(平成20年度福岡県文化賞受賞者、陶芸家、詩人) 「僕の天体」

司会：市川郢康（久留米大学）

2、研究発表：

第1室

- (1) 高瀬 博（福岡県立香椎高校教諭）
「日本の名曲の英訳」から学ぶ「日英語比較」
- (2) 藤枝善之（京都外国語大学・短期大学）
「映画『タイタニック』で教える比較文化論」 司会：八尋春海（西南女学院大学）
- (3) 長谷部陽一郎（同志社大学）
「文と sentence—理論言語学と自然言語処理の観点から」
- (4) 金志佳代子（兵庫県立大学）
「2つの格モデルと格解釈のゆらぎについて—深層格と認知格による分析の可能性—」
司会：安藤裕介（久留米大学）
- (5) 高野吾朗（佐賀大学）
「冷戦期の遺物か、それとも永遠の不条理芸術か—劇作家・三好十郎の賞味期限に関する一考察—」
- (6) 桐木千寿（華道家）
「祇園芸妓と韓国妓生—もてなしの日韓比較文化論」 司会：丸橋良雄（京都大学）

第2室

- (1) 弊旗佐江子（久留米大学比較文化研究所研究員）
「異類婚姻譚の研究—「狐」を中心に—」
- (2) 佐田亜紀（久留米大学比較文化研究所研究員）
「天神縁起に描かれた六道」 司会：崎村弘文（久留米大学）
- (3) 梶原雄（高知大学・大学院）
「韓国の外国人留学生動向」
- (4) 橋口公子（久留米大学比較文化研究所研究員）
「「にほふ」と「かをる」」 司会：奥村訓代（高知大学）
- (5) 曲志強（山口大学人文学部外国人研究者）
「日本語と中国語のあいさつ表現について—日本人と中国人の日常あいさつ意識に関する調査—」 司会：南川啓一（福岡女学院大学）

第3室

- (1) 喜多野裕子（神戸市外国語大学<非>）
「『じゃじゃ馬ならし』とブロードサイド・バラッド」
- (2) 中村友紀（関東学院大学）
「文化のホメオスタシス：Hamlet に見る民衆伝統の抵抗勢力」
司会：北村賢介（九州大学）
- (3) 許 莉芬（久留米大学大学院）
「台湾における外国人花嫁の社会的適応に関する研究」
- (4) 樋口真己（西南女学院大学）
「市民センターにおける生涯学習と地域づくり」 司会：保坂恵美子（久留米大学）
- (5) 駄田井直子（西南学院大学大学院）
「中国宗教復興における観光—雲南省大理市を例に—」
司会：山口みほ（九州大学・久留米大学<非>）

*2009年3月14日（土）、第21回九州支部大会を福岡医療短期大学において開催。

支部長 市川郢康